

IXIL ラシッサ クローゼット折れ戸 すっきりタイプ 取付け説明書



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

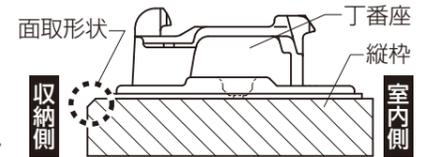
▲注意

- 本体の落下の原因となりますので、下記事項をお守りください。
 - ・縦枠に丁番座を取付ける際は、指定のねじで丁番座と縦枠にガタツキ・すき間がないように取付けてください。
 - ・丁番カップ・吊ヒンジは指定のねじでガタツキ、ねじ締め忘れ・ゆるみがないように固定してください。
 - ・本体の吊込みは、必ず2人作業で行ってください。
- ・本体の吊込みを行う場合は、丁番カップが丁番に「カチャッ」と音がするまではめ込んでください。
- ・全ての丁番カップを丁番座に固定した後に吊ヒンジと吊車の固定を行ってください。吊車・吊ヒンジのみでは、本体重量に耐えられないためです。
- ・建付け調整後、固定ねじが必ず締まっていることを確認し、本体をゆすって外れないことを確認してください。

■取付け上のお願い

- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。
- 運搬・加工の際は、傷つかないように取扱ってください。
- 造作枠・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 本製品は上吊方式のため、梁またはまぐさで重量をうけますので、本体重量に耐える断面の梁またはまぐさをご使用ください。梁またはまぐさが弱いと本体が下がって開閉できなくなるおそれがあります。
- 【参考】<本体重量(1P)約30kg×本体数の重さ>が梁またはまぐさにかかります。
- 梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- 造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用してください。湿潤材は使用しないでください。
- 枠が本体の内側にひかえる仕様のため、開口部の内法寸法の精度を十分に確保する必要があります。開口寸法精度が不十分なまま施工した場合は、すき間の不均一・本体の開閉ができなくなるおそれがあります。
- 仕上り面(上図点線部)にクロス張りができるレベルの下地処理をする必要があります。枠と開口部壁面のすき間が不均一になるおそれがあります。
- 造作材を取付けるときは、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の落下や、枠の垂れ下がりゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と明記されている場合は除きます)
- 枠組立て前に上レールに吊車を挿入してください。吊車を入れ忘れると本体の吊込みができません。
- 本製品のねじ締め付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締め付けトルクが強すぎるとねじが空転したり、入り込みすぎたり、ねじ頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 組立ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。枠組立て後、揺らす・引っ張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因となります。
- 丁番座の向きは図を参照し、間違いのないようにしてください。本体の吊込みができなくなります。
- 枠を取付ける際、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 位置出し定規は縦枠の位置出しに使用してください。上枠と縦枠は位置が異なります。位置出し定規は厚い方を室内側壁表面に当て、薄い方を開口部内側になるように使用してください。向きを間違えると本体が開口部よりはみ出して正しい納まりになりません。組立てた枠の向きは枠部材の面取り部が収納側になるように開口部へ入れてください。本体が吊込みができなくなります。
- 上枠取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の開閉不具合につながります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- ねじが曲がらないように、必ず同梱のねじで本体に取付けてください。ねじが曲がると本体を吊込みできなくなりますので、ご注意ください。
- 最初に中間の丁番を取付けてから、上下端部の丁番を取付けてください。本体を支えている手を離す場合は、必ず丁番を2個以上取付けてからにしてください。
- 本体吊込み後、3回程度開閉を行い、吊ヒンジと吊車の固定ねじにゆるみ・ガタツキがなく、取付いているか必ず確認してください。
- 把手の取付けの際は、当て木をしなくて穴をあけると、シートがめくれる原因となります。
- 本体の把手に重量物をぶら下げないでください。把手が壊れ落下するおそれがあります。
- 戸当りが上枠に当たるように張付けてください。開閉操作時に上枠に本体が直接当たり衝撃が緩和されず、キズがつきます。
- 本体召合せ部品の中央部の取付位置は、隣り合う本体の段差が目立つ位置に取付けてください。
- 製品取付けの際の建具養生時に表面シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直貼りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。

■丁番座の取付け方向

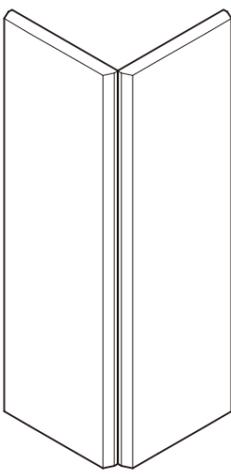
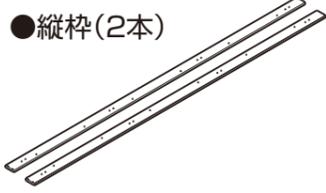


■保管上のお願い

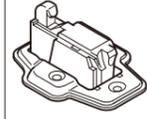
- 本製品はソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・昼夜などで温湿度差が激しい場所
 - ・湿気の多い場所
- 本製品を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因となります。

■部品・部材の明細

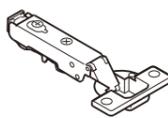
■部材明細

本体	3方枠
●クローゼット本体	●上枠
	
	●上レール
	
	●縦枠(2本)
	
	●位置出し定規(2本)
	

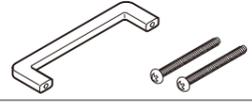
■枠部品セット

部品名称	吊車	丁番座	皿小ねじ M4×50 (枠組立て用)	トラスタッピンねじ φ4×60 (上枠躯体取付け用)	DNビス φ3.8×50 (躯体取付け用)	皿タッピンねじ φ4×16 (丁番座取付け用)	プッシュ ボタン
呼称							
0723	1	4	4	4	12	8	12
1223-1623-1723	2	8	4	7	12	16	12

■本体部品セット

部品名称	丁番カップ	皿タッピンねじφ4×16 (丁番カップ/吊りヒンジ 取付けねじ)	召合せ部品取付けねじ (トラスタッピンねじφ3.5×16) 4本同梱	吊りヒンジ	戸当り
呼称					
0723-1223-1623-1723	4	10	2 <small>※2枚建て納まりのときは使用しません。</small>	1	2

■把手セット(別売り)

部品名称	把手セット(取付けねじ付)	つまみ把手セット(取付けねじ付)
呼称		
把手	1	1
取付けねじ	2	1

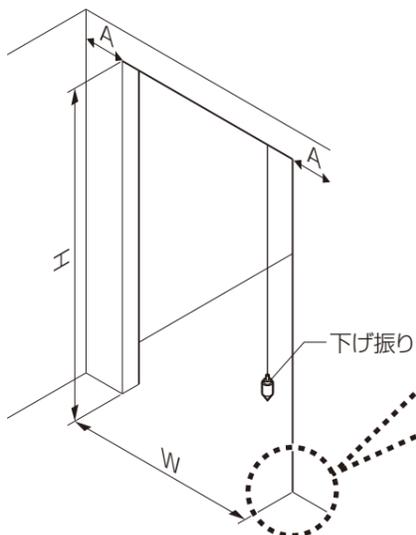
■開口部の準備

- 上吊り方式のため、上枠は十分強度のある梁又はまぐさに取付けてください。
【参考】<本体重量(1P)約30kg×本体数の重さ>が梁またはまぐさにかかります。
- 開口部の水平・垂直を水準器・下げ振りなどで確認してください。

●お願い

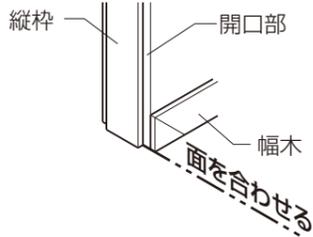
- ※枠が本体の内側にひかえる仕様のため、開口部の内法寸法の精度を十分に確保する必要があります。開口寸法精度が不十分なまま施工した場合は、すき間の不均一・本体の開閉ができなくなるおそれがあります。
- ※仕上り面(上図点線部)にクロス張りができるレベルの下地処理をする必要があります。枠と開口部壁面のすき間が不均一になるおそれがあります。
- ※壁面からA寸法を50mm以上確保してください。A寸法が50mm以下になると扉を開ける際、扉が壁に接触するおそれがあります。

【室内設置の場合】

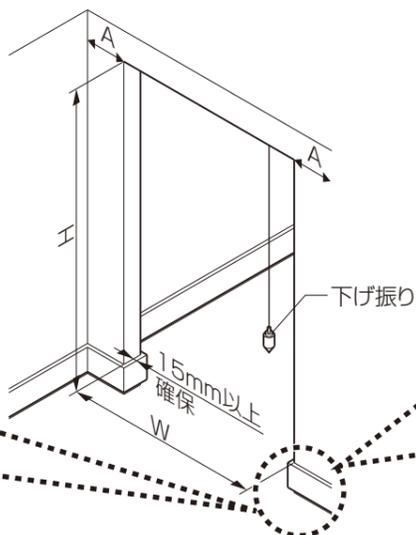


- 幅木端部は留め納めとし、開口部の面を合わせて取付けてください。開口部より飛び出すと、本体の開閉ができなくなります。

■幅木の施工例

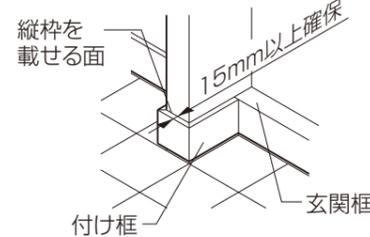


【玄関設置の場合】

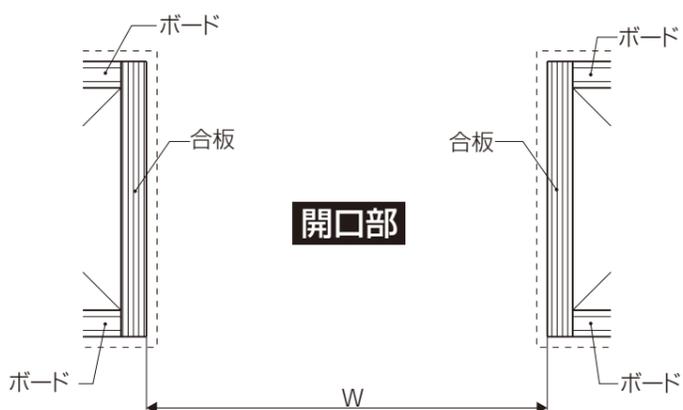


- 付け框の上に縦枠を載せる納まりになります。縦枠を載せる付け框部分は、壁より15mm以上出して納めてください。

■玄関框との納まり

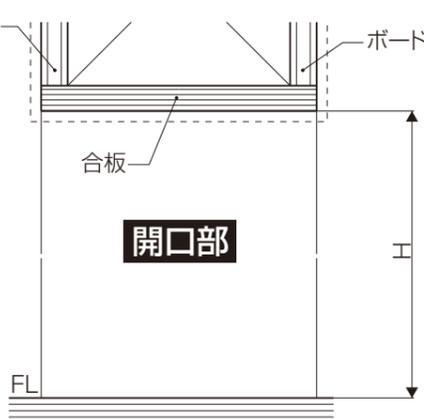


●横断面



●縦断面

【室内設置の場合】



【玄関設置の場合】

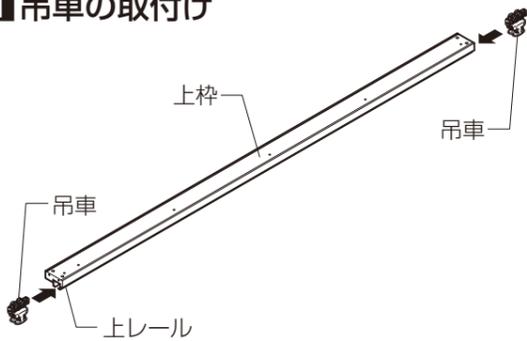


(単位:mm)

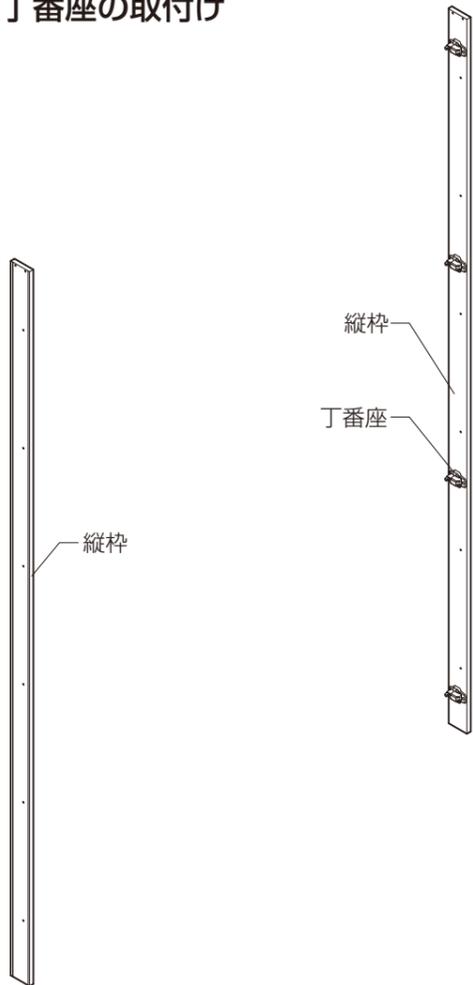
呼称	W	H
0723	734	2306
1223	1188	2306
1623	1644	2306
1723	1708	2306

■組立て順序

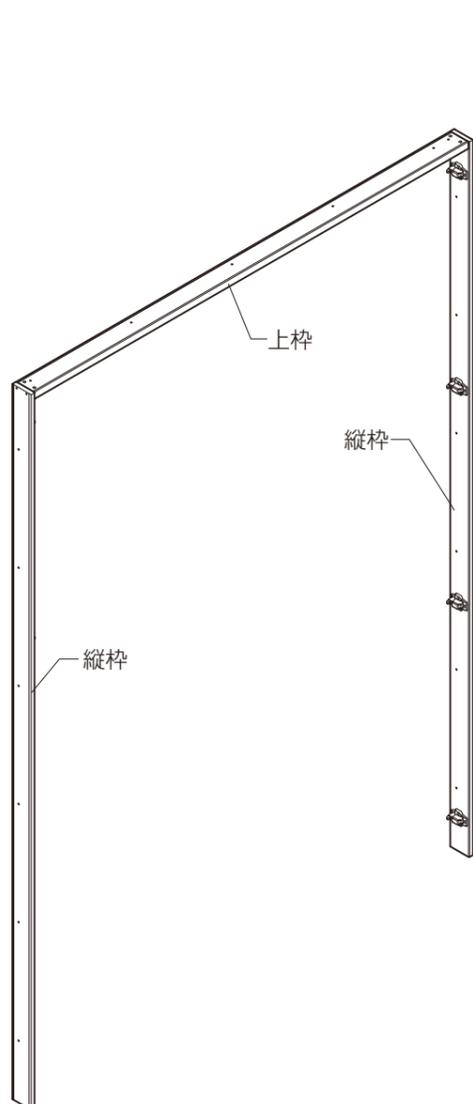
1 吊車の取付け



2 丁番座の取付け



3 枠の組立て



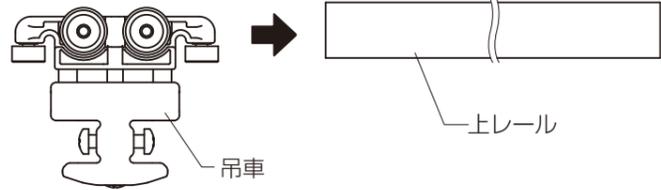
■組立て詳細

1 吊車の取付け

●吊車を上レールの端部から挿入してください。

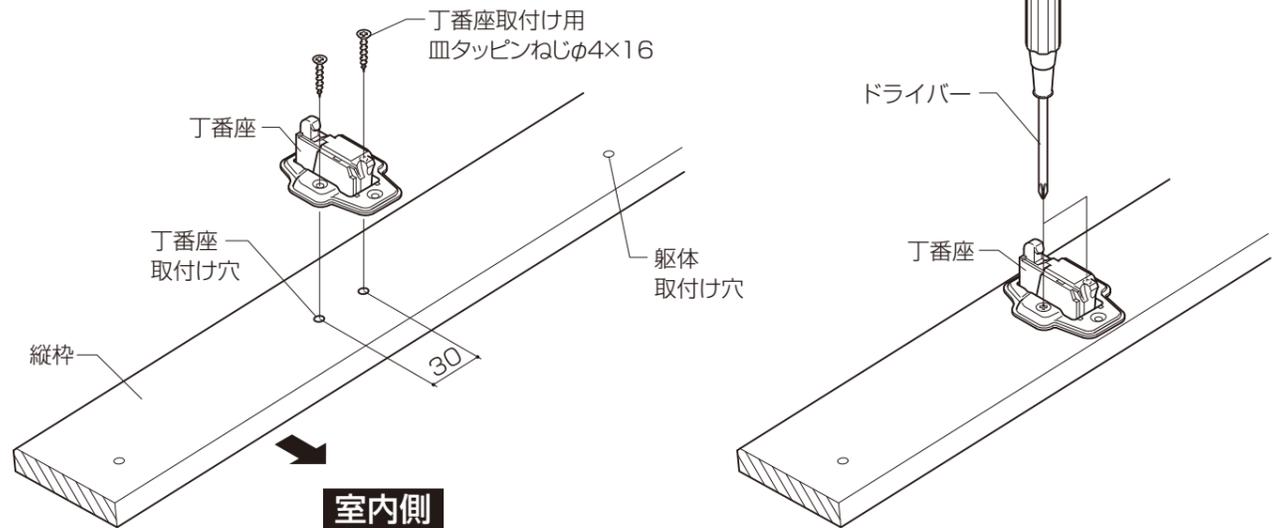
お願い

※枠組立て前に上レールに吊車を挿入してください。吊車を入れ忘れると本体の吊込みができません。

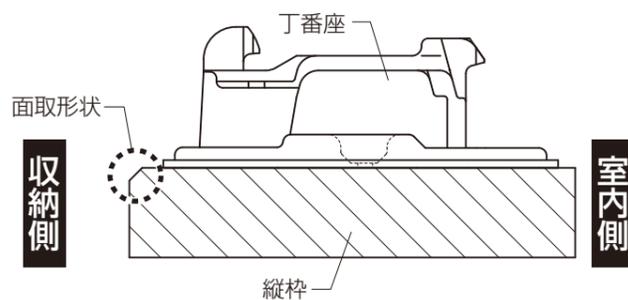


2 丁番座の取付け

●縦枠に丁番座を取付けます。



■丁番座の取付け方向



お願い

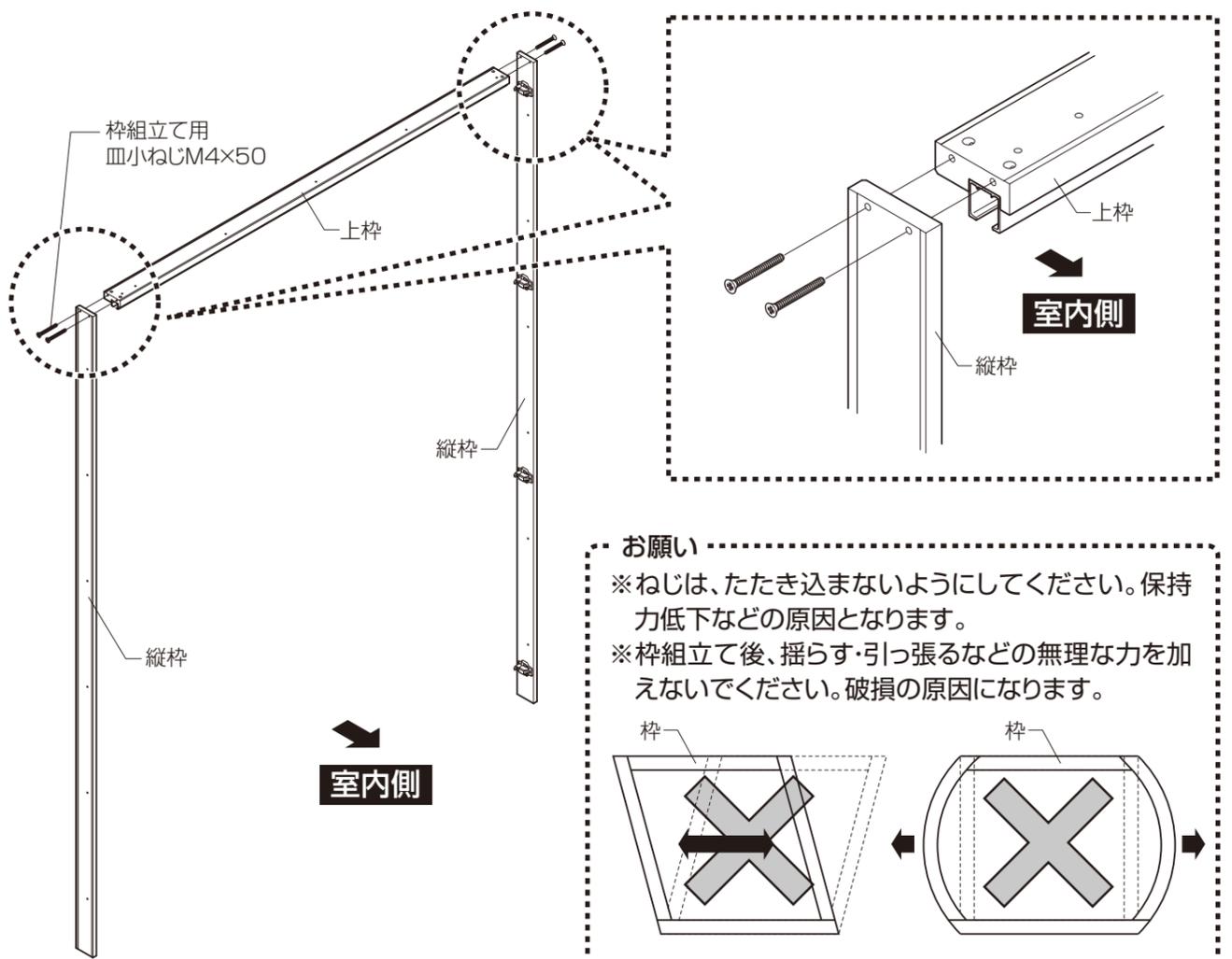
※丁番座の向きは左図を参照し、間違いないようにしてください。本体の吊込みができなくなります。

▲注意

●縦枠に丁番座を取付ける際は、指定のねじで丁番座と縦枠にガタつき・すき間がないように取付けてください。本体落下の原因となります。

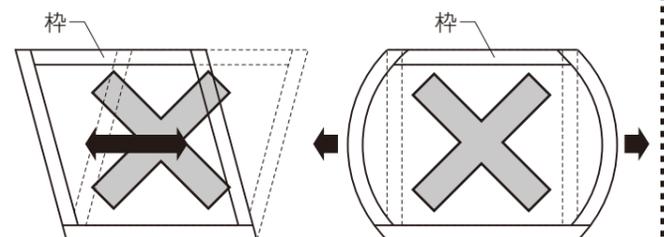
3 枠の組立て

●下図のように各部材を組合せ、同梱のねじで固定します。

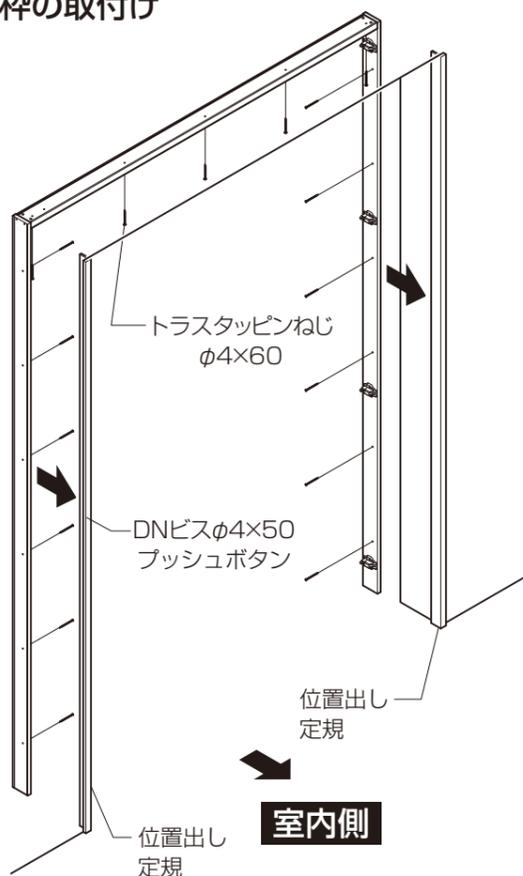


お願い

※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。
※枠組立て後、揺らす・引っ張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因となります。

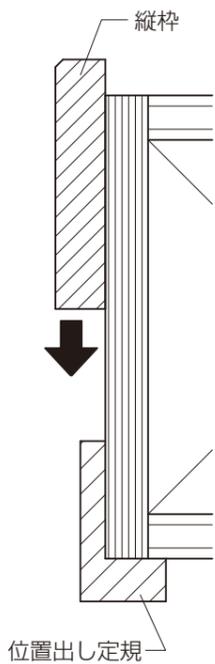


4 枠の取付け



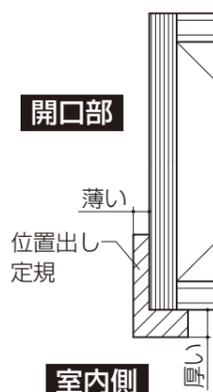
4 枠の取付け

- ①位置出し定規をかくし釘・ねじなど(現場手配)を使用して、開口部に仮止めします。
※位置出し定規は、枠の取付け後に取外します。
- ②組立てた枠を開口部に入れて、位置出し定規に突き当てます。

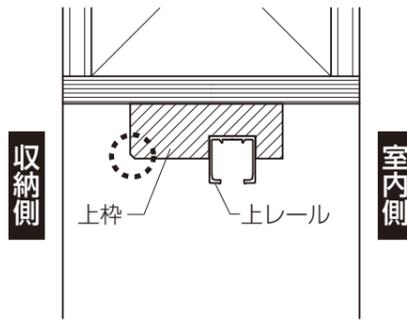
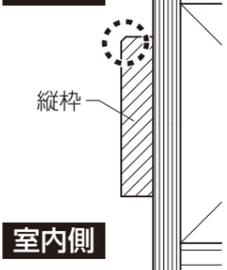


お願い

- ※位置出し定規は縦枠の位置出しに使用してください。上枠と縦枠は位置が異なります。
- ※位置出し定規は右図のように厚い方を室内側壁表面に当て、薄い方を開口部内側になるように使用してください。向きを間違えると本体が開口部よりはみ出して正しい納まりになりません。
- ※組立てた枠の向きは枠部材の面取り部(下図点線部)が収納側になるように開口部へ入れてください。本体が吊込みができなくなります。

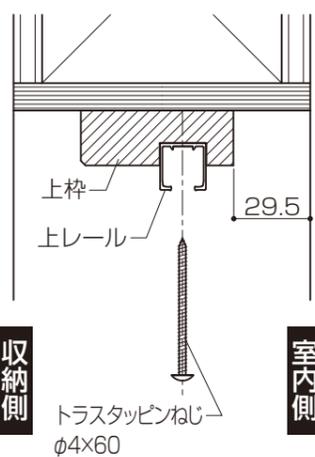
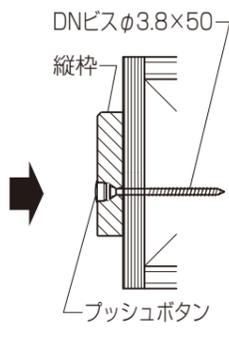
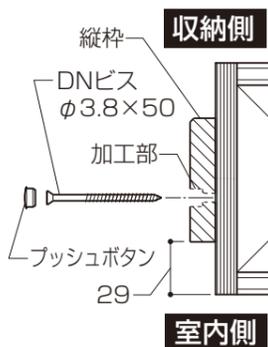


収納側



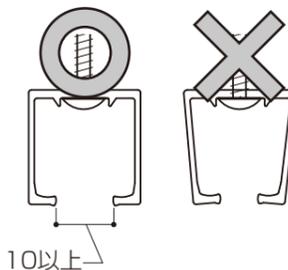
- ③組立てた枠の位置(下図参照)を確認し、上枠・縦枠を開口部に固定します。その際、レールも合わせて固定します。

※DNビスの頭と縦枠の加工部(下図参照)が面一になるまでねじを回してください。

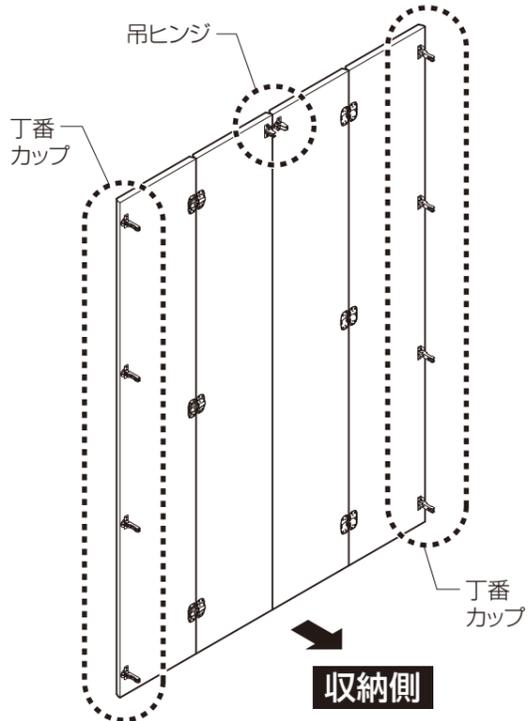


お願い

- ※上枠取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の開閉不具合につながります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。



5 丁番カップの取付け



- ④枠を固定した後に位置出し定規を取外してください。

5 丁番カップの取付け

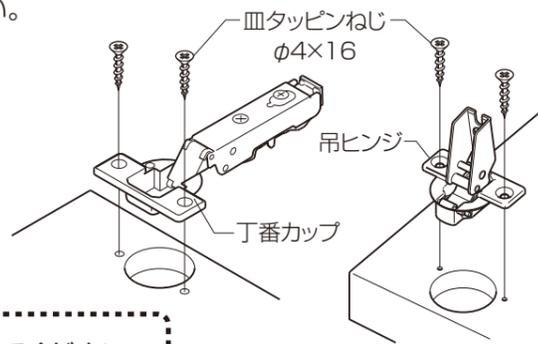
- 丁番カップ・吊ヒンジを、同梱のねじで本体に取付けてください。

注意

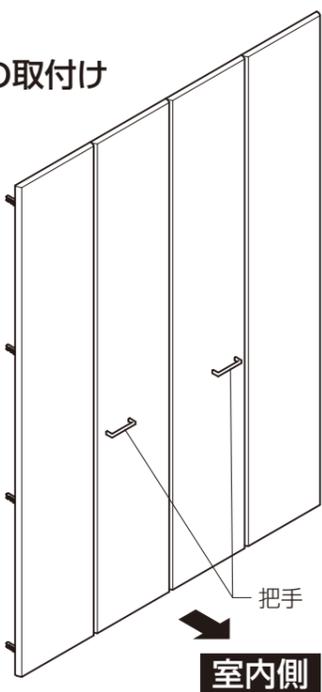
- 丁番カップ・吊ヒンジは指定のねじでガタツキがないように固定してください。ねじの締め忘れ・ゆるみなどは本体の落下の原因となります。

お願い

- ※ねじが曲がらないように、必ず同梱のねじで本体に取付けてください。ねじが曲がると本体を吊込みできなくなりますので、ご注意ください。



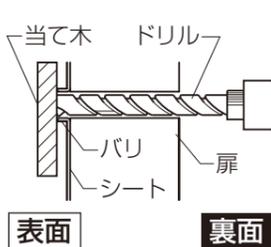
6 把手の取付け



6 把手の取付け

- 把手の形を確認してください。
- 把手位置は右表を参考に取付位置を決めてください。
- 本体の裏側に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。把手を取付ける側の本体の下穴を貫通(φ4.5)してください。
- バリ防止のため、扉表側に必ず当て木をしてください。

■バリ部拡大図

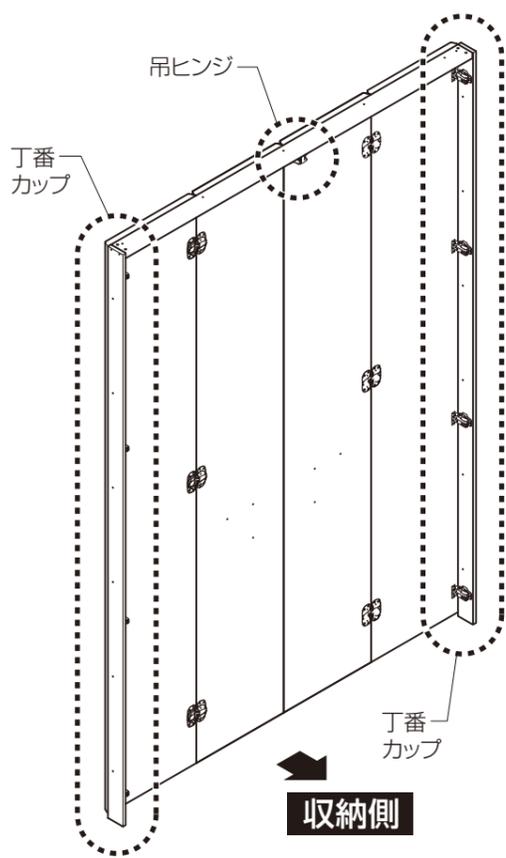


お願い

- ※当て木をしないで穴をあけると、シートがめくれる原因となります。

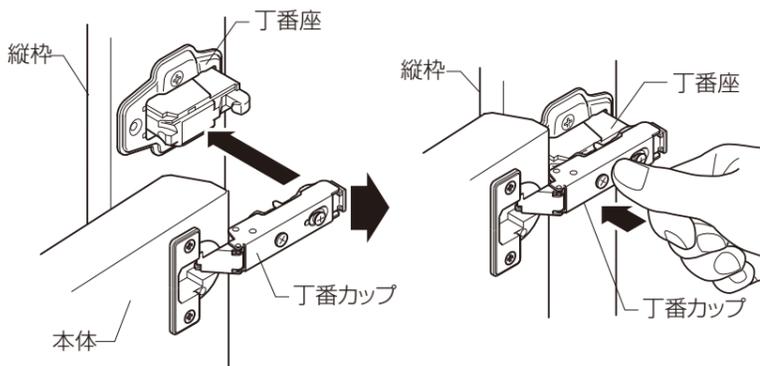
	枠組	フラット本体
縦把手		
横把手		
つまみ把手	現地加工 	
つまみ把手 中棧取付の場合	現地加工 	

7 本体の吊込み



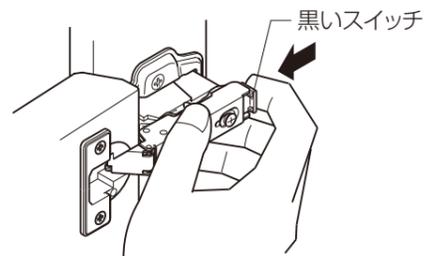
7 本体の吊込み

① 丁番カップを縦枠の丁番座にセットし、上から押込んでください。



※扉の取外し方法

取外す場合は、先端のスイッチ(黒色)を押込むと外れます。



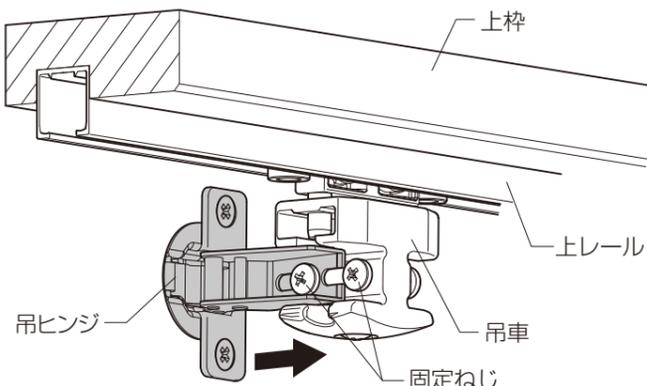
お願い

- ※最初に中間の丁番を取付けてから、上下端部の丁番を取付けてください。
- ※本体を支えている手を離す場合は、必ず丁番を2個以上取付けてからにしてください。

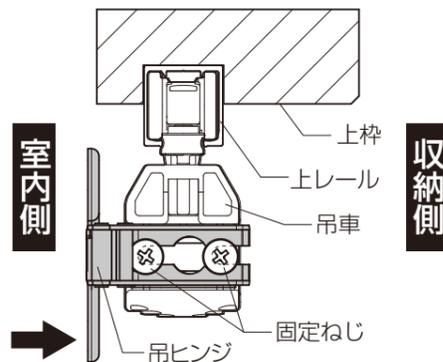
▲注意

- 本体の吊込みは、必ず2人作業で行ってください。本体の落下の原因となります。
- 本体の吊込みを行う場合は、丁番カップが丁番座に「カチャ」と音がするまではめ込んでください。本体の落下の原因となります。

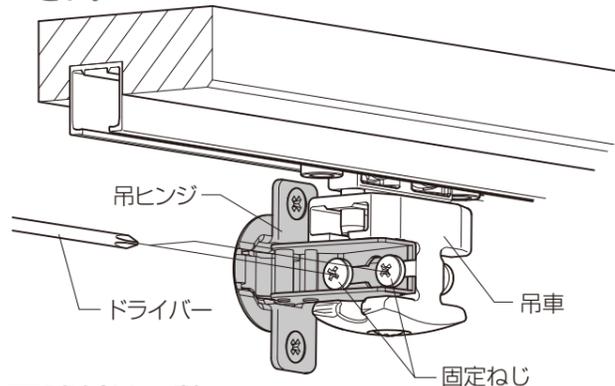
② 吊ヒンジを吊車に固定ねじ(吊車に取付済)で取付けてください。



③ 吊車をスライドさせて吊ヒンジに固定ねじを差込み、吊ヒンジを奥に押込んで固定ねじが長穴部にくるようにしてください。



④ 固定ねじを締めて吊車と吊ヒンジを固定してください。

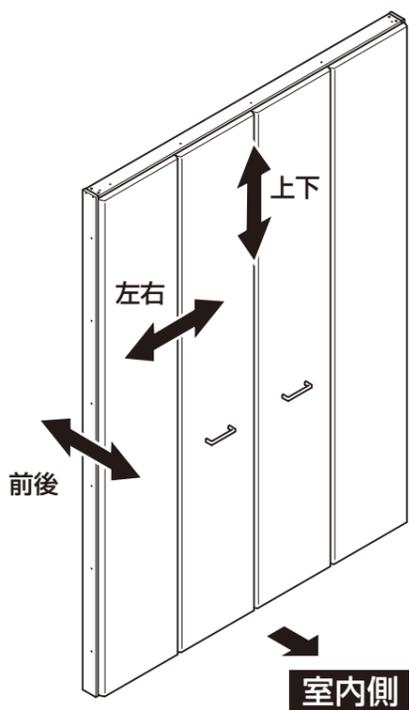


お願い
※本体吊込み後、3回程度開閉を行い、吊ヒンジと吊車の固定ねじにゆりみ・ガタツキがなく、取付いているか必ず確認してください。

▲注意

- 全ての丁番カップを丁番座に固定した後に吊ヒンジと吊車の固定を行ってください。吊車・吊ヒンジが本体重量に耐えられずに落下する原因となります。

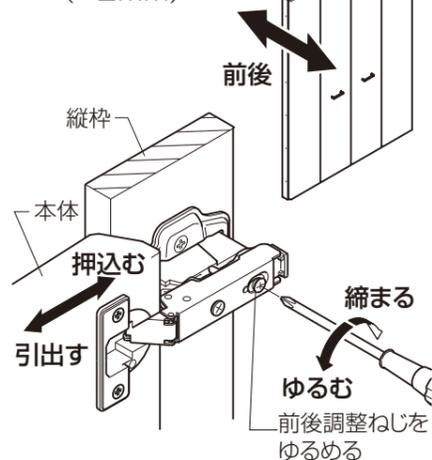
8 建付け調整



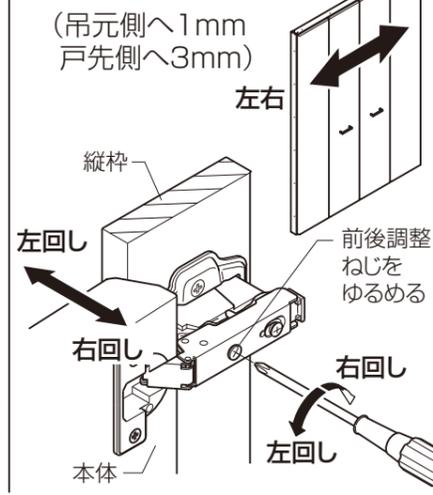
8 建付け調整

① 丁番カップを調整する。調整ねじをゆるめて、丁番カップ止め位置を調整してください。

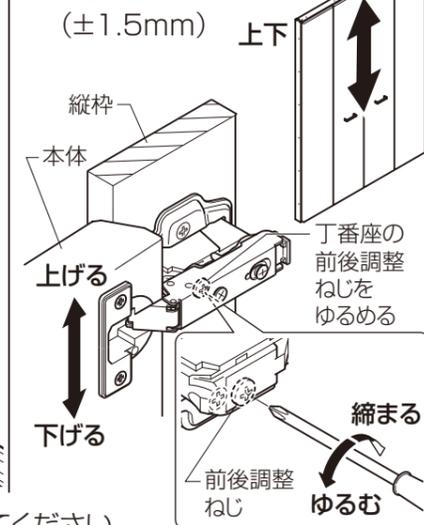
- 調整範囲 (±2mm)



- 調整範囲 (吊元側へ1mm 戸先側へ3mm)

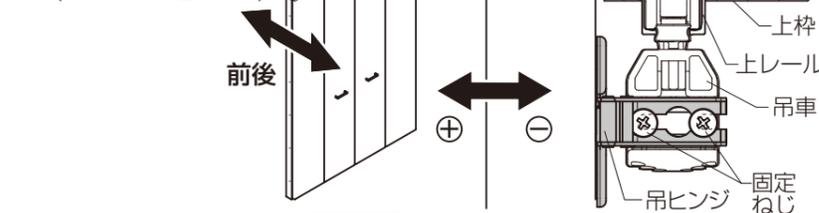


- 調整範囲 (±1.5mm) 上下



② 吊ヒンジを調整する。固定ねじをゆるめて、吊ヒンジ止め位置を調整してください。

- 調整範囲 (+1mm, -2.5mm)



▲注意

- 建付け調整後、固定ねじが必ず締まっていることを確認し、本体をゆすって外れないことを確認してください。本体の落下の原因となります。

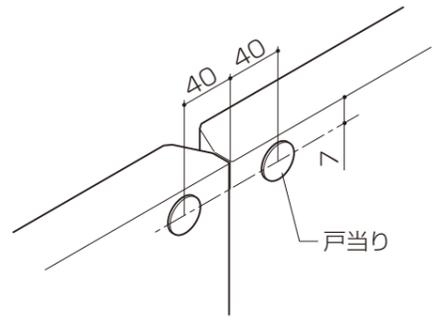
9 戸当りの取付け



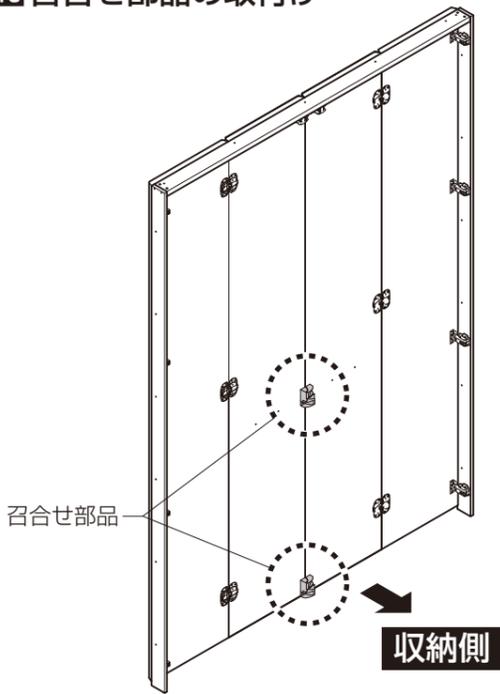
9 戸当りの取付け

●右図を目安に戸当りを本体上部に張付けてください。

お願い
※戸当りが上枠に当たるように張付けてください。
開閉操作時に上枠に本体が直接当たり衝撃が緩和されず、キズがつきます。



10 召合せ部品の取付け

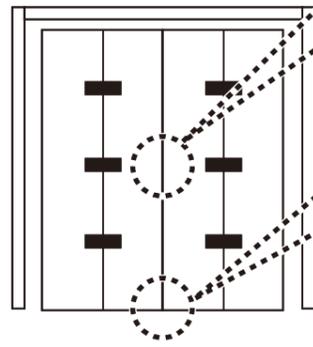


10 召合せ部品の取付け

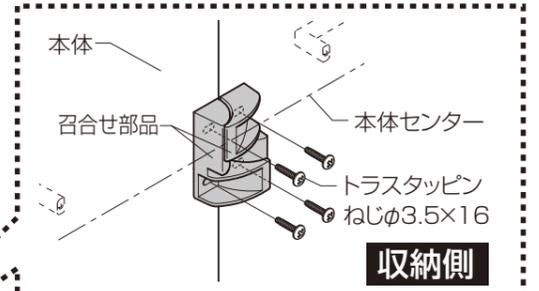
●召合せ部品によって扉同士の段差を防ぎ、すき間やガタツキを防ぎますので必ず取付けてください。

●本体下部と中央部に召合せ部品を取付けます。
※下図の取付け寸法を目安とし、下穴をあけ同梱の取付けねじで取付けてください。

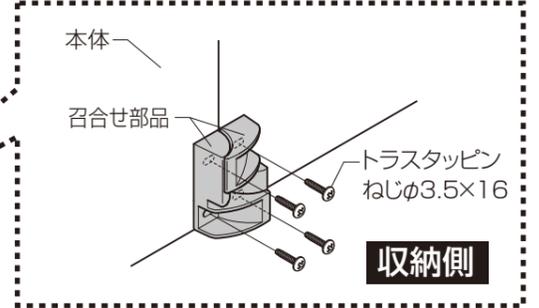
お願い
※中央部の取付け位置は、隣り合う本体の段差が目立つ位置に取付けてください。



※図は扉裏面を示します。

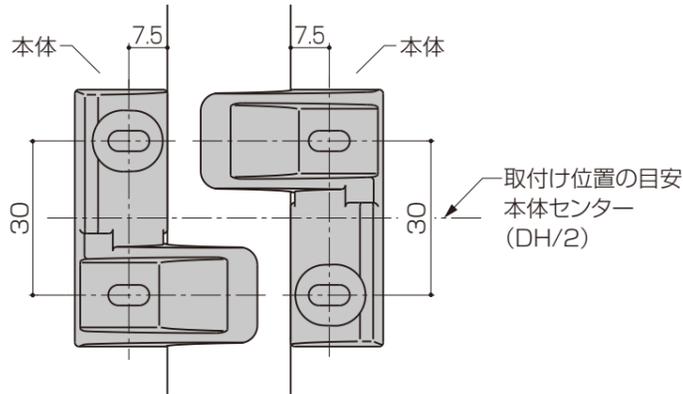


収納側

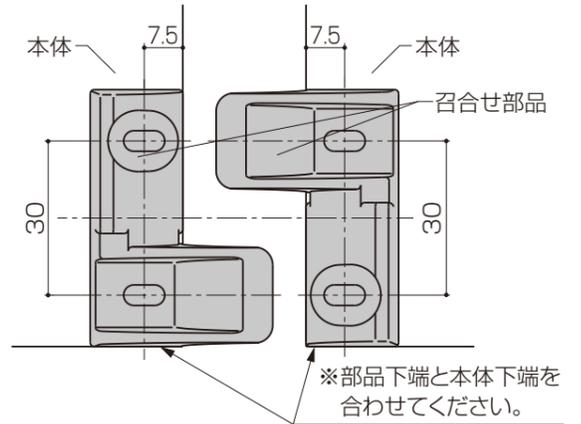


収納側

●本体中央部



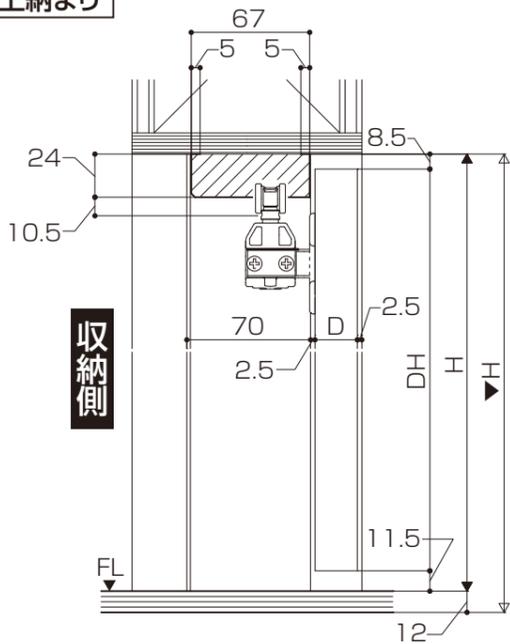
●本体下部



■納まり図

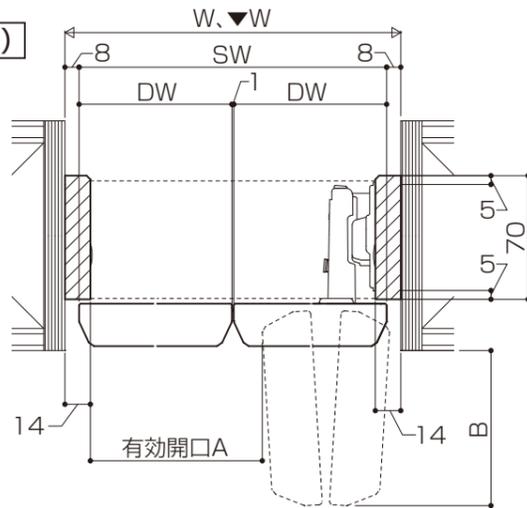
●縦断面図

床上納まり



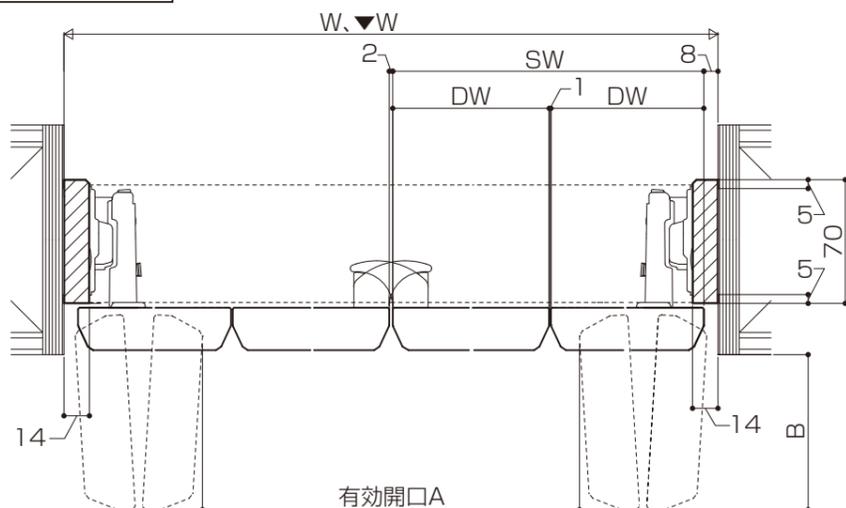
●横断面図

2枚建て納まり(右吊)



基本 寸法 (mm)	W呼称	07	12
	W(SW)	734(718)	1188(585)
	W呼称	16	17
	W(SW)	1644(813)	1708(845)
	H呼称	23	
	H(DH)	2306(2286)	

4枚建て納まり



W呼称	W	A寸法	B寸法
07	734	621	339
12	1188	992	273
16	1644	1444	386
17	1708	1508	402

土間納まり



※本体厚D寸法は、デザインにより異なります。
(23.9~24.4)